

京都山城総合医療センター
第四次経営計画進捗報告
(令和3年度報告)

令和4年8月

国民健康保険山城病院組合

目 次

1. 経営計画主要項目
2. 経営計画の進捗状況
3. 医師の配置状況
4. 下期経営状況

1. 第四次経営計画主要項目

(1) 計画期間: 令和元年度～令和3年度

地域医療支援病院としてふさわしい医療機能や診療体制、診療実績及び地域に対する貢献など、より高次の病院を目指し取り組みを行う期間

(2) 重点テーマ及び取り組み内容

地域住民にとってより良い医療を提供すること、すなわち「住民医療の推進」を重点テーマとし、職員の主体的参加によって、次の3分野に重点的に取り組む。

1. 地域医療支援病院(上位の急性期病院)としての機能や体制の整備

- 1) 救急医療の充実
 - ア. 救急診療体制の充実
 - イ. 救急車応需率の向上、搬送件数の拡大
- 2) 需要拡大が見込まれる疾患への対応力強化
- 3) 安心して出産子育てできる環境の維持
- 4) 認知症医療の充実
- 5) 健診の充実
- 6) 職員の意識改革(ホスピタリティの向上)
 - ア. 住民目線の医療の構築
 - イ. 患者満足度の向上

2. 医療制度改革を先取りし、地域に貢献する取り組み

- 1) 病診連携のさらなる強化
- 2) 入退院支援の充実
- 3) 在宅医療のバックアップ機能の強化
- 4) リハビリテーションの充実
- 5) 訪問看護の拡充
- 6) 老健やましろとの連携強化

3. 活力ある組織づくり

- 1) 医療職に選ばれ、優れた医療職が集う病院づくり
- 2) 働き方改革への適切な対応
- 3) それぞれの部署・職種の生産性向上
- 4) 広報活動やイベントの充実

2. 経営計画の進捗状況

(令和4年3月末現在)

○ 達成済、△ 現在進行中、※ 以降に実施を目指す事項、⇒ 前年度の状況を継続、 未達成

施策	目標年度			備考
	元年度	2年度	3年度	
①地域医療支援病院(上位の急性期病院)としての機能や体制の整備	-	-	-	
1)救急医療の充実	-	-	-	
ア.救急診療体制の充実	-	-	-	
○ 救急専門医の配置	△	⇒	○	・救急部門に「救急科専門医」1名の配置体制を継続
○ 総合診療医の配置の検討	 	△	○	・令和2年度から常勤医師1名(総合内科医)の配置
○ 救急看護認定看護師の配置などによる救急部門の設置	△	⇒	○	・R2年5月院内トリアージ導入 ・外来部門に「救急看護認定看護師」を1名配置体制を継続
○ 臨床検査技師・放射線技師等の検査体制の充実(24時間体制)	△	⇒	△	・現在の曜日ごとの当直体制を、今後、人員体制を確保し、全日当直体制を目指す。 ・CT・MRI検査の土曜日(月2回:紹介患者枠)実施の継続。
イ.救急車応需率の向上、搬送件数の拡大	-	-	-	
○ 応需領域(疾患)の拡大	△	⇒	△	
○ 夜間休日の診療体制の強化	△	⇒	△	・内科系、外科系の非常勤医師の派遣継続 ・非常勤医師(救急科)の派遣継続
○ 救急室と他の部門との連携強化(診療応援など)	△	⇒	△	・救急患者のスムーズな受入・応援体制の確立
2)需要拡大が見込まれる疾患への対応力強化	-	-	-	
○ 脳卒中、外傷、心血管、消化器、呼吸器、腎疾患などの急性期と終末期緩和ケアの充実	△	⇒	○	・R2年4月「一次脳卒中センター」の運用を開始し、脳血管障害の積極的な受入れを実施。 ・循環器内科(非常勤医師)の時間外診療体制を継続
○ 脳外科・整形外科の診療の充実	 	△	△	・R5年4月回復期リハビリ病棟開設に対応すべく、脳外科・整形外科・リハビリテーション科医師の増員に努める。
○ 高度医療機器導入の検討(内視鏡手術支援ロボット等)	※	※	※	・地域の診療状況及び経営的観点を踏まえ、今後の導入について検討する。
3)安心して出産子育てできる環境の維持	-	-	-	
○ 周産期、小児の診療体制の維持・充実	△	⇒	○	・産科急変(産科危機的出血・超緊急帝王切開など)の対応体制を強化 ・新型コロナ陽性の妊婦の分娩・帝王切開・新生児・小児の対応。
○ 妊娠、出産、育児期における相談体制の強化・地域との連携	△	⇒	○	・周産期ユニット(外来と病棟の切れ目無い対応)、助産師外来開設に向けて、体制作りと人材育成を開始。

施 策	目標年度			備 考
	元年度	2年度	3年度	
①地域医療支援病院(上位の急性期病院)としての機能や体制の整備	-	-	-	
4) 認知症医療の充実	-	-	-	
○ 物忘れ外来など認知症外来の充実	△	⇒	○	・令和3年9月から、診察日を月2回から月3回へ増枠。又、至急の受診依頼は、通常の診察枠で、もの忘れの診察を実施することで対応。
○ 入院患者への認知症ケア加算の取得	○	⇒	○	・担当認定看護師を中心に活動を継続中(R元年8月「認知症ケア加算 I」施設基準取得)
○ 認知症患者増加に対応した補助者や見守りボランティアの導入	△	⇒	△	・コロナ禍により、引き続き、傾聴ボランティアの活動は自粛している。
5) 健診の充実	-	-	-	
○ 受診枠の拡大	△	⇒	○	・R2年度、人間ドックの枠を拡大し、現在継続中。 ・木津川市の人間ドック予約について、WEB予約の導入を進める。
○ オプション検査や食事提供などアメニティの充実	△	⇒	○	・R2年度、新オプション(骨密度・アレルギー検査)を追加し、現在継続中。
○ 専任医師の配置の検討				
○ 健診に特化した特別診察枠の設置(外来診察からの分離)の検討				
6) 職員の意識改革(ホスピタリティの向上)	-	-	-	
ア. 住民目線の医療の構築	-	-	-	
○ 外来から入院までスムーズなシステムの構築	△	⇒	△	・診療推進委員会を中心に、救急応需体制等について、継続的に協議、実践を行っている
○ 医療相談対応の充実	△	⇒	○	・専任看護師の配置体制を継続 ・週1回カンファレンスを行い、多職種で改善策の検討を実施。
○ 予約患者の待ち時間対策	△	⇒	△	・R3年8月、⑦番連携診療受付(紹介患者の受付)のスペースを拡充し、受付の段階での待ち時間解消を図った。
○ 接遇向上	△	⇒	△	・職員からの患者さんへの積極的な声かけの実施。 ・事務職員が外来フロアを巡回し、患者対応を行っている。
イ. 患者満足度の向上	-	-	-	
○ 患者満足度調査やふれあい箱等の意見の反映(一層の推進)	△	△	○	・2週間に1回ふれあい箱対応委員会を開催し、患者さんからのご意見について協議し、意見を反映できるよう努めている。(ご意見の多かった院内Wi-Fiは、令和4年6月に設置予定。)

施策	目標年度			備考
	元年度	2年度	3年度	
②医療制度改革を先取りし、地域に貢献する取り組み	-	-	-	
1) 病診連携のさらなる強化	-	-	-	
○ 外来診療の紹介予約制の拡大	△	⇒	○	・R3年度 紹介患者数10,656人、紹介率71.5%(令和2年度:9,194人、71.6%) 広報活動を通じて、当院のウリをPRしていく。
○ 症状安定患者の地域医療機関への紹介の推進	△	⇒	○	・R3年度 逆紹介患者数9,221人、逆紹介率87.5%(令和2年度:7,465人、82.4%) 選定療養費の金額が改定されることから、逆紹介推進を病院一丸として取り組んでいく。
○ 診療所等からの入院依頼の全数受け入れ	△	⇒	○	・R3年度 地域からの受け入れ患者数291人、R2年度から130%増(R2年度 223人) 地域包括ケアシステムの一翼を担うため、引き続き広報活動を推進する。
2) 入退院支援の充実	-	-	-	
○ 入院前・退院支援の充実	△	⇒	○	・R3年度 入退院支援加算 I の算定件数1,143件(目標:1,000件/年)。(R2年度 982件) コロナ禍のため、オンラインでのカンファレンス実施にも力を入れている。
○ 早期カンファレンスなど、在宅医療チームへのスムーズな退院時連携	△	⇒	○	・院内関係部署で患者の情報共有を行い、必要に応じて病院組合のサービス(訪問看護、通所リハビリなど)の利用を促進している。
3) 在宅医療のバックアップ機能の強化	-	-	-	
○ 地域包括ケア病棟での軽度急性期受け入れ拡大	△	⇒	○	・R3年度 地域からの受け入れ患者数291人、全受入件数の45%を占めている。(R2年度は43%) 地域包括ケアシステムの一翼を担うため、地域からの受け入れを推進する。
○ 地域包括ケア病棟でのレスパイト入院受け入れ拡大	△	⇒	○	・地域の関係機関からの問い合わせに対し、速やかに受け入れを実施している。
4) リハビリテーションの充実	-	-	-	
○ 入院での急性期リハビリテーション(脳血管・運動器・呼吸器・心大血管)の充実	△	⇒	○	・初期加算算定患者数:前年度比較 (脳血管疾患140人:78%) (運動器:262人97%) (呼吸器243人:130%) (心大血管218人:118%)
○ 外来での回復期リハビリテーションの拡充	△	⇒	△	・令和3年度外来訓練件数1080件:97%
○ 回復期リハビリテーション病棟開設の検討		※	○	・回復期リハビリテーション病棟34床 令和5年4月開設予定。
○ セラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等)の増員		※	△	・回復期リハビリテーション病棟開設及び急性期リハビリの充実に向け、更なる人員増を推進。
5) 訪問看護の拡充	-	-	-	
○ 重度・困難症例などの当院退院後患者や医療的ケア児への訪問看護の充実	△	⇒	○	・がん・難病・透析・医療的ケア児等、当院で担うべき対象患者を中心とした訪問看護の継続
○ 在宅医療に携わる地域の専門職との連携強化	△	⇒	○	・カンファレンスやケア会議等については、コロナ禍のため令和2年度以降、ZOOM会議や紙面での情報共有を行い連携を図っている。
○ 認知症疾患医療センターと連携した認知症患者の支援	△	⇒	△	・高齢で認知症を抱えた対象患者が増加しており、認知症疾患医療センターと積極的に連携を図り対応を進めている
○ 訪問看護ステーションの設置の検討及び訪問リハビリテーションの実施	△	⇒	△	・訪問看護におけるステーション化については、地域の状況等鑑みながら引き続き検討する。
6) 老健やましろとの連携強化	-	-	-	
○ 相互受け入れの円滑化	△	⇒	△	・患者情報や空床情報の共有。地域からの利用申し込みについて、病状やADLなどを共有し、適切な療養先(地域包括ケア病棟、老健やましろ)で受け入れできるよう努めている。

施 策	目標年度			備 考
	元年度	2年度	3年度	
③活力ある組織づくり	-	-	-	
1) 医療職に選ばれ、優れた医療職が集う病院づくり	-	-	-	
○ 職員の働きがい向上対策の実施	△	△	△	・職員意見箱の設置の他、年1回職員ストレスチェックを実施。
○ 就業環境の整備	△	⇒	△	・機会あるごとに、時間外勤務の縮減、年休取得の促進を職員に周知し、働きやすい職場環境の構築に努めた。また安全衛生委員会において、職場環境の整備を推進している。
2) 働き方改革への適切な対応	-	-	-	
○ 時間外勤務の削減	△	⇒	△	・委員会及び会議等の構成員、開始時間、会議所要時間の見直し。 ・時間外労働短縮に向けて実態を確認し、所属ごとに改善策を検討
○ 時間シフトや人員配置の見直し	△	⇒	△	・各所属における効率的なシフト等の推進
○ 医師の勤務間インターバルや交替勤務制の導入の検討				
○ 複数主治医制や担当医制の検討				
○ 休暇がとりやすい制度・体制の構築	△	⇒	△	・R3年12月末時点での有給休暇(5日)取得状況を把握し、達成状況を所属長へフィードバックを行った。今後とも、全体会議を通じ各部署へ取得促進の周知を行う。
3) それぞれの部署・職種の生産性向上	-	-	-	
○ 職員が意見を述べやすい職場づくり	△	⇒	△	・部署内ミーティングなどを活用して意見を述べる機会を創出
○ 若手職員の職種間交流や改善提案を促す取り組み			※	・新型コロナウイルス感染症対策、およびコロナ対応による業務負担などにより、実施できなかった。
4) 広報活動やイベントの充実	-	-	-	
○ 地域住民・医師会等に対する積極的な広報	△	⇒	○	・やましろタイムズやホームページなどの広報媒体を使い、診療情報や新型コロナウイルス感染症に関する情報を地域に発信している。
○ 地域住民等に対するイベントの充実、各職種の積極的な参加促進	△	△	△	・当院主催イベント、対外的なイベントへの参加は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、中止となるものもあったが、リモートで参加できるものについては、積極的に参加した。

3. 医師の配置状況 (各年度3月末現在)

	令和3年度	令和2年度	前年度比
	人	人	人
内科	1(1)	1(1)	0
消化器内科	4(4)	4(4)	0
循環器内科	4(2)	3(2)	1
呼吸器内科	0	0	0
腎臓内科	4(2)	3(2)	1
糖尿病・代謝内科	4(2)	4(2)	0
リウマチ科	2(1)	2(1)	0
総合内科	1(0)	0	1
脳神経内科	3(3)	3(3)	0
小児科	5(3)	5(3)	0
外科	2(2)	2(2)	0
呼吸器外科	1(1)	1(1)	0
消化器外科	2(2)	2(2)	0
乳腺・内分泌外科	3(2)	2(1)	1
小児外科	1(1)	1(1)	0
整形外科	2(2)	2(1)	0
脳神経外科	1(1)	1(1)	0
皮膚科	1(1)	1(1)	0
泌尿器科	3(2)	3(2)	0
泌尿器科(人工透析)	0	0	0
放射線科	4(4)	4(3)	0
麻酔科	3(2)	4(3)	▲1
産婦人科	4(3)	4(3)	0
眼科	2(1)	2(1)	0
耳鼻咽喉科	0	0	0
病理	0	0	0
研修医	8	8	0
合 計	65	62	3

※常勤医師(会計年度任用職員含む)の数

※()内は専門医 再掲

4. 令和3年度 下期経営状況（10月～3月）

(1) 収益的収支

(単位：千円)

	3年度下期 (10～3月)見込額	2年度下期 (10～3月)実績額	(10～3月)前年比
事業収益	4,601,175	4,365,101	236,074
うち入院収益	2,192,994	2,179,745	13,249
うち外来収益	1,340,220	1,225,784	114,436
事業費用	4,420,328	4,404,995	15,333
うち給与費	2,410,016	2,348,050	61,966
うち材料費	1,099,225	996,082	103,143
うち経費	576,950	556,441	20,509
経常損益	190,159	△ 17,243	207,402
特別損益	△ 9,312	△ 22,651	13,339
純損益	180,847	△ 39,894	220,741

※令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての診療業務を行ったことから、病床確保事業等について、約6億5,000万円の補助金収益があった。

(2) 患者数

(単位：人)

	3年度下期 (10～3月)見込額	2年度下期 (10～3月)実績額	(10～3月)前年比
外来延患者数	71,188	68,093	3,095
入院延患者数	38,800	39,680	△ 880
新入院患者数	2,848	2,806	42
総紹介患者数	5,175	5,067	108
うち初診紹介患者数	3,673	3,703	△ 30